

# 令和3年度農作物病害虫発生予察注意報第3号

令和3年(2021年)10月14日  
山口県病害虫防除所

病害虫名 野菜類のガ類

(ハスモンヨトウ、コナガ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ)

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 多

3 注意報の根拠

- (1) 10月中旬の巡回調査(キャベツ)では、ハスモンヨトウの発生ほ場率91.7%(平成43.3%)、寄生株率16.5%(平成2.6%)、コナガの発生ほ場率66.7%(平成15.6%)、10株当たり虫数0.3頭(平成0.1頭)、シロイチモジヨトウの発生ほ場率41.7%(平成5.2%)、寄生株率2.0%(平成0.2%)で、いずれも発生ほ場率、寄生株率が過去10年で最も高かった。オオタバコガの発生ほ場率は66.7%(平成23.0%)で過去10年で最も高かった(表、図)。
- (2) ハスモンヨトウは卵塊、若齢幼虫が中心であり、防除を徹底して発生密度を低下させる必要がある。
- (3) 今後しばらく、ガ類の活動に好適な時期が続くため、農作物への被害が懸念される。

4 防除方法

- (1) ほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。
- (2) ハスモンヨトウの卵塊や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は、捕殺するとともに薬剤防除を実施する。
- (3) 防除薬剤は、令和3年農作物病害虫・雑草防除指導基準を参考に選定する。  
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/index00.html>

5 防除上注意すべき事項

- (1) ハスモンヨトウやコナガは多くの薬剤に抵抗性が発達しており、特に中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (2) 施設栽培では、ハスモンヨトウは葉の裏や鉄骨パイプ等の高い位置に黄褐色の毛で覆われた卵塊を産卵することが多いので注意する。
- (3) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (4) 農薬を使用する際には使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

6 その他

「薬剤感受性検定の結果」は、山口県病害虫防除所ホームページを参照する。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/index00.html>

表 キャベツ調査ほ場でのガ類の発生状況(10月中旬)

	発生ほ場率(%)		寄生株率(%)	
	R3	平年	R3	平年
ハスモンヨトウ	91.7	43.3	16.5	2.6
コナガ	66.7	15.6	0.3	0.1 *
オオタバコガ	66.7	23.0	2.3	0.9
シロイチモジヨトウ	41.7	5.2	2.0	0.2

\*コナガは10株当たり頭数

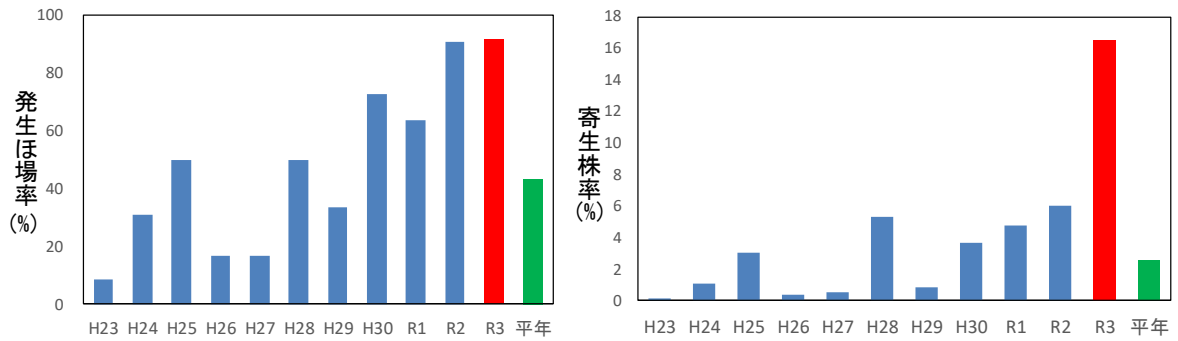


図1 キャベツ調査ほ場でのハスモンヨトウ発生率の年次比較(10月中旬 左:ほ場率 右:寄生株率)

<参考>



写真1 ハスモンヨトウの卵塊(左)と若齢幼虫(右)



写真2 コナガの幼虫(上)と蛹(下)



写真3 オオタバコガの老齢幼虫



写真4 シロイチモジヨトウの老齢幼虫